



OLYMPUS

35RC

● 取扱説明書 ●

現金正価 ￥21,000

月賦定価 ￥22,100

ケース ￥1,300

お買上げありがとうございます。

・ オリンパス35RCは、小型軽量設計、オート・マニュアルの切換可能、コード不要のフラッシュマチックシステム、正確な距離計、便利なセルフタイマー、機動的なレバー巻上などメカニズム重点主義のハイテクニクを駆使できるコンパクト35ミリカメラです。

傑作を写すには、まずカメラをよく知ることが先決。撮影に入る前にこの説明書をよく読み早く自分のものにしてください。



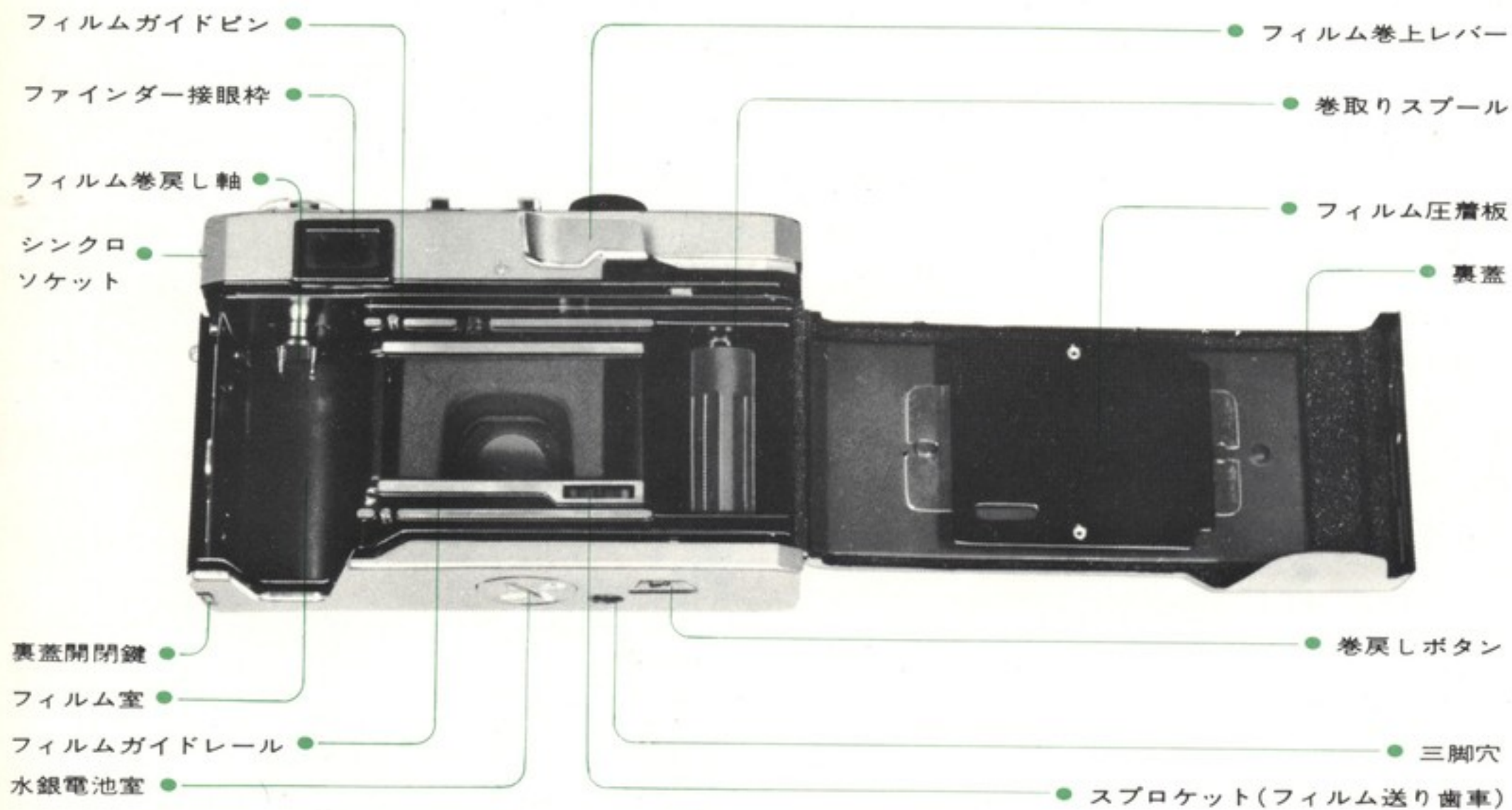


《目次》

●各部の名称	3	●ファインダー内での露出のみかた	20
●おもな性能	5	●特殊な露出のテクニック	21
●水銀電池室	6	●構図とピント	23
●撮影の基本手順	7	●被写界深度	24
●フィルムの入れかた	11	●カメラの構えかた	25
●フィルム巻上レバー／フィルム駒数計	15	●フィルムの巻戻しかた	26
●フィルム感度環	16	●フラッシュ撮影のしかた	27
●シャッターダイヤル	17	●セルフタイマーの使いかた	29
●絞り環	18	●カメラ保管上のご注意	30
●露出の決めかた	19	●アクセサリ	31

●各部の名称

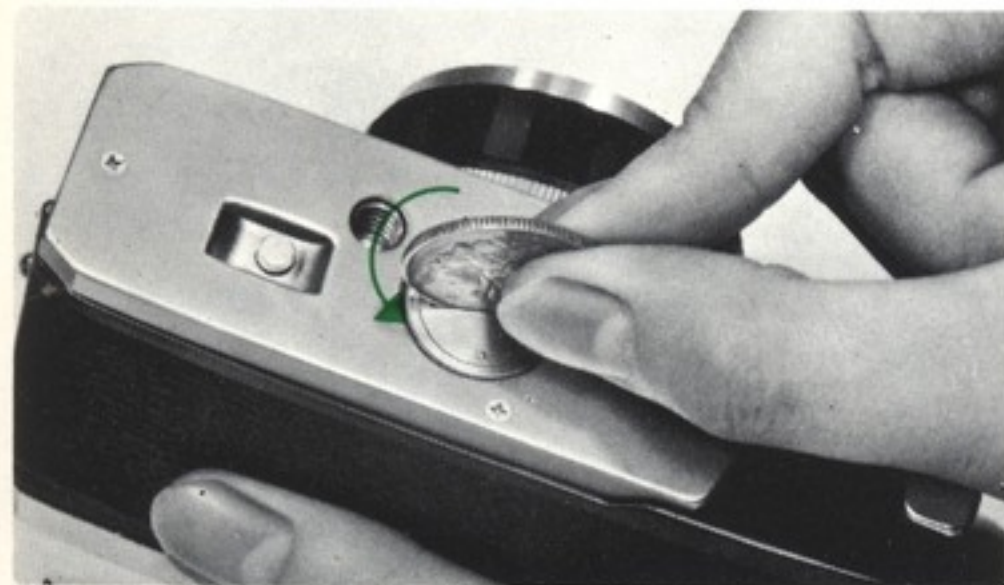




● おもな性能

- 画面サイズ：24×36mm（35ミリフルサイズ）
レンズ：Eズイコー F2.8 f=42mm（4群5枚構成）
シャッター：オリンパスシャッター B. $\frac{1}{5}$ ～ $\frac{1}{500}$ 秒、不適正露出時リリースロック付
シンクロナイズメント：X接点
手動絞り目盛：F2.8～22
ガイドナンバー目盛：10～40（m系）、32～130（ft系）フラッシュマチックシステム
ファインダー：ブライトフレームファインダー 0.6倍、パララックス（視差）補正マーク付、シャッタースピード目盛・絞り目盛表示、不適正露出時赤ゾーン付
フィルム装填：ELシステム（イージー・ローディング）
フィルム巻上：レバー式ワンストローク巻上、巻上角150°小さざみ巻上可能、セルフコッキング、二重巻上防止、二重露出防止
フィルム駒数計：順算式、自動復元
フィルム巻戻し：クランク式、巻戻しボタンセット式
ピント調節：二重像合致式一眼連動距離計、撮影距離0.9m～∞
露出調節：（自動）露出計によるシャッタースピード優先の絞り自動調節式（EE）
（手動）シャッタースピードと絞りの選択式
測定範囲：EV 7（F2.8・ $\frac{1}{5}$ 秒）～EV 18（F22・ $\frac{1}{500}$ 秒）（ASA100）
受光部：ポイントアイ、CdS使用
電源：水銀電池（JIS・H-D型 またはHS-D型）1.3V 1個使用
フィルム感度目盛：ASA25～800、DIN15～30
セルフタイマー：レバー式（90°）、約10秒
裏蓋開閉：蝶番式
アクセサリシュー：コードレス接点付
フィルター径：43.5mmねじ込み式
大きさ・重量：109(巾)×70(高)×50(厚)mm、410gr

● 水銀電池室



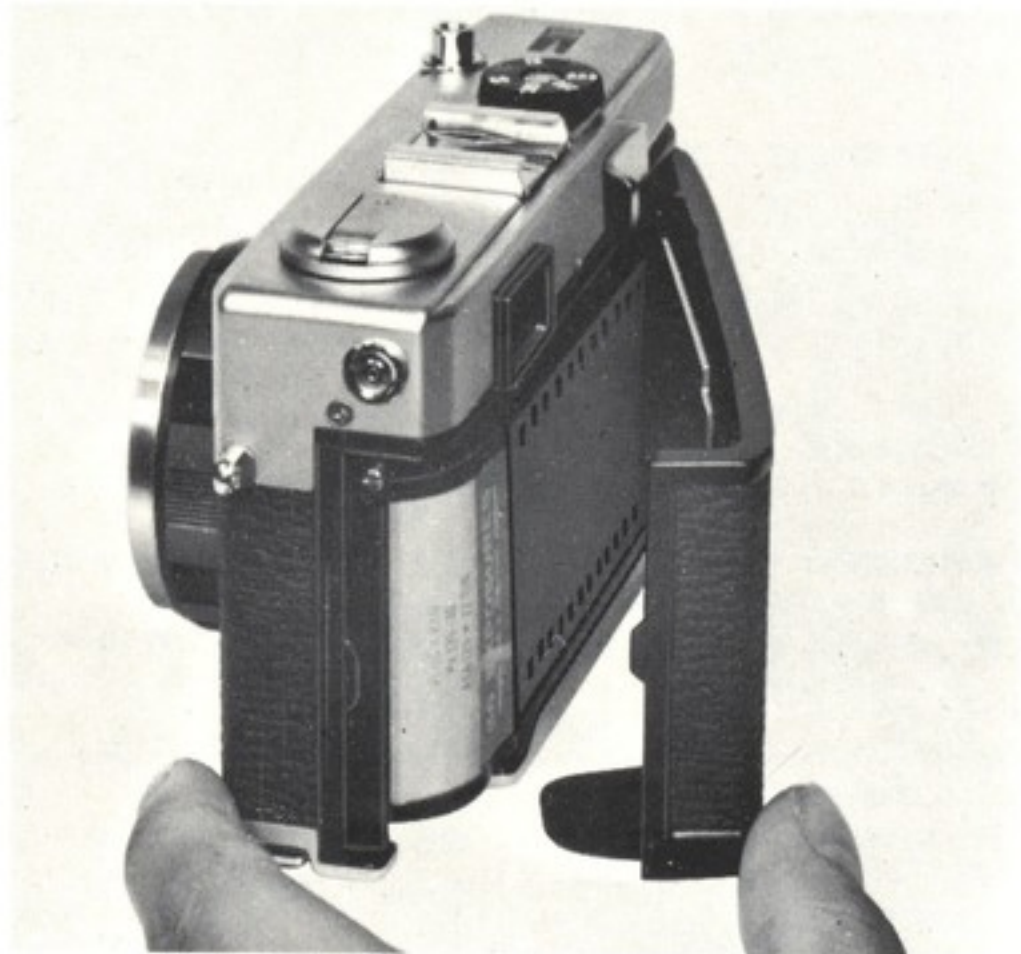
水銀電池はカメラの露出計を働かせる重要な電源です。カメラ底部にある水銀電池室に正しく入れてください。

1. 水銀電池室の溝にコインをあてがい、左（反時計方向）に回すとはずれます。
2. 水銀電池（JIS・H-D型 またはHS-D型 1.3V）1個を、写真のように（+）文字の書いてある方が外側になるように入れて、蓋を元通りしっかりねじ込んでください。

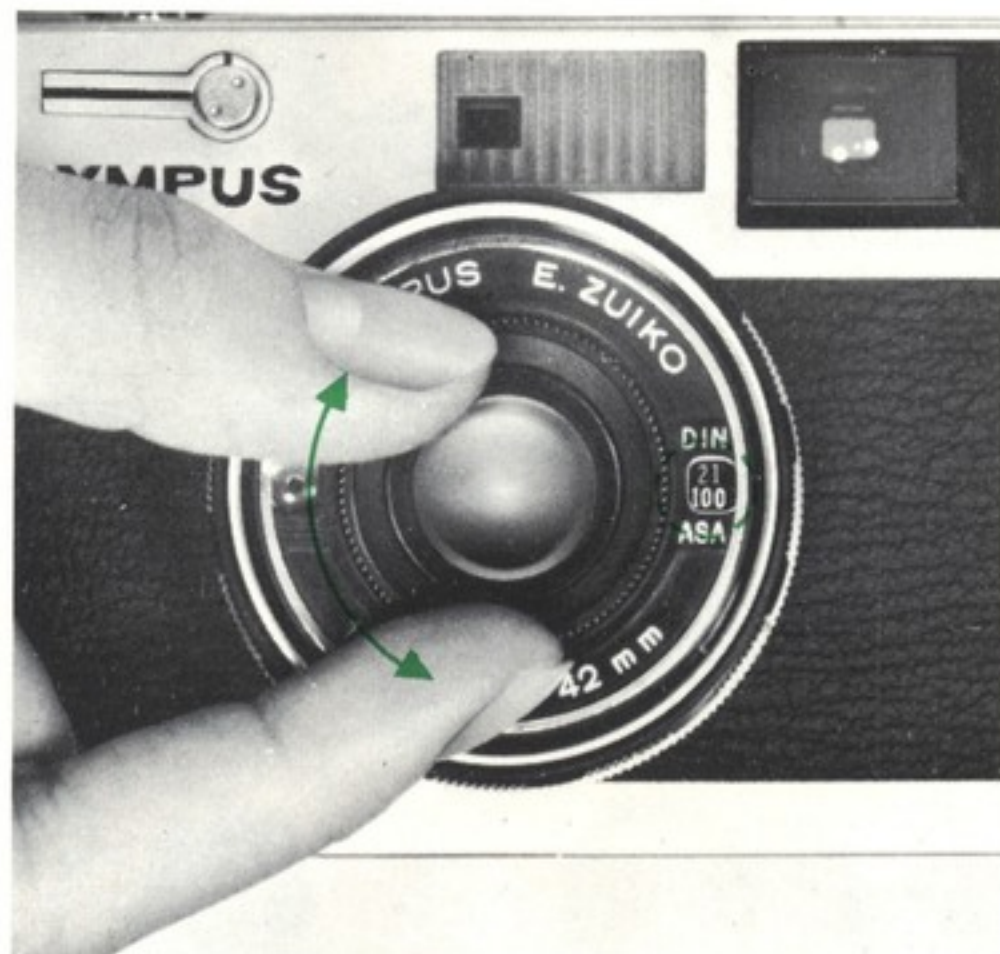
〈注意事項〉

- 電池を入れるときには電池の表面を乾燥した清潔な布でよくふいてから入れてください。
- 水銀電池は、寿命が切れると性能が一時に落ち、露出計が正しく働かなくなります。
- 一般に寿命は、普通に使っていれば1年位、特に使用回数の多い場合は半年位です。その時期がきたら新しい電池と交換するように心掛けてください。
- 使用できる水銀電池は、H-D型 またはHS-D型1.3Vです。市販価格100円です。
- 水銀電池の消耗を防ぐために、撮影しないときは絞り環を回してAを中央赤指標からはずしOFFに合わせてください。また長期間使用しないときは、電池をカメラから取りだして保管してください。

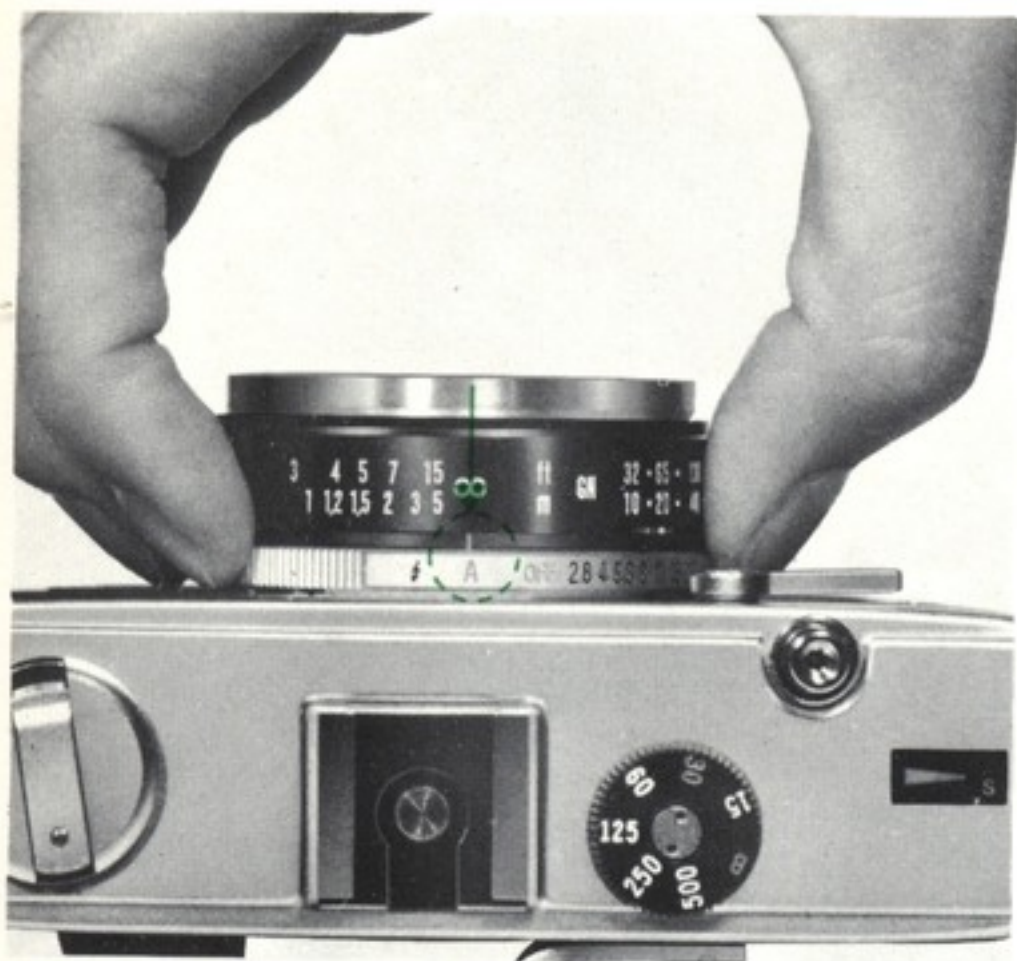
● 撮影の基本手順



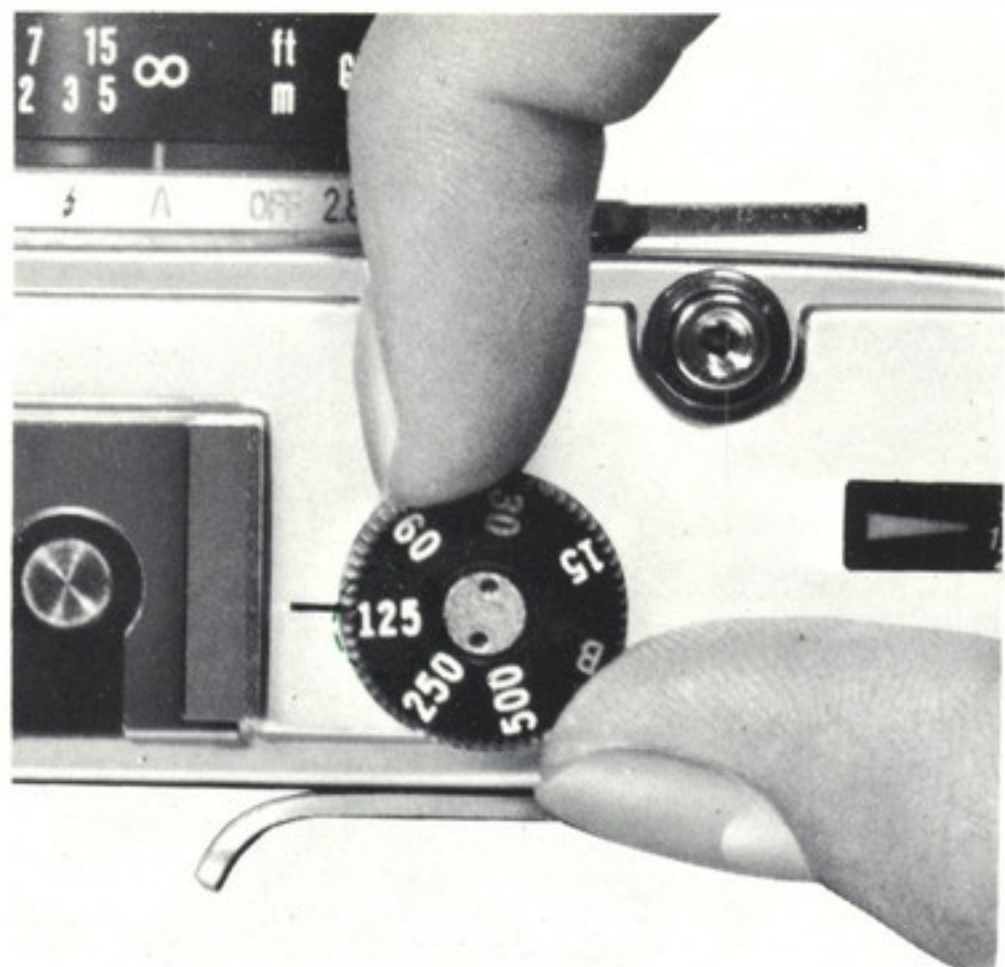
1 フィルムを入れます。(11頁参照)



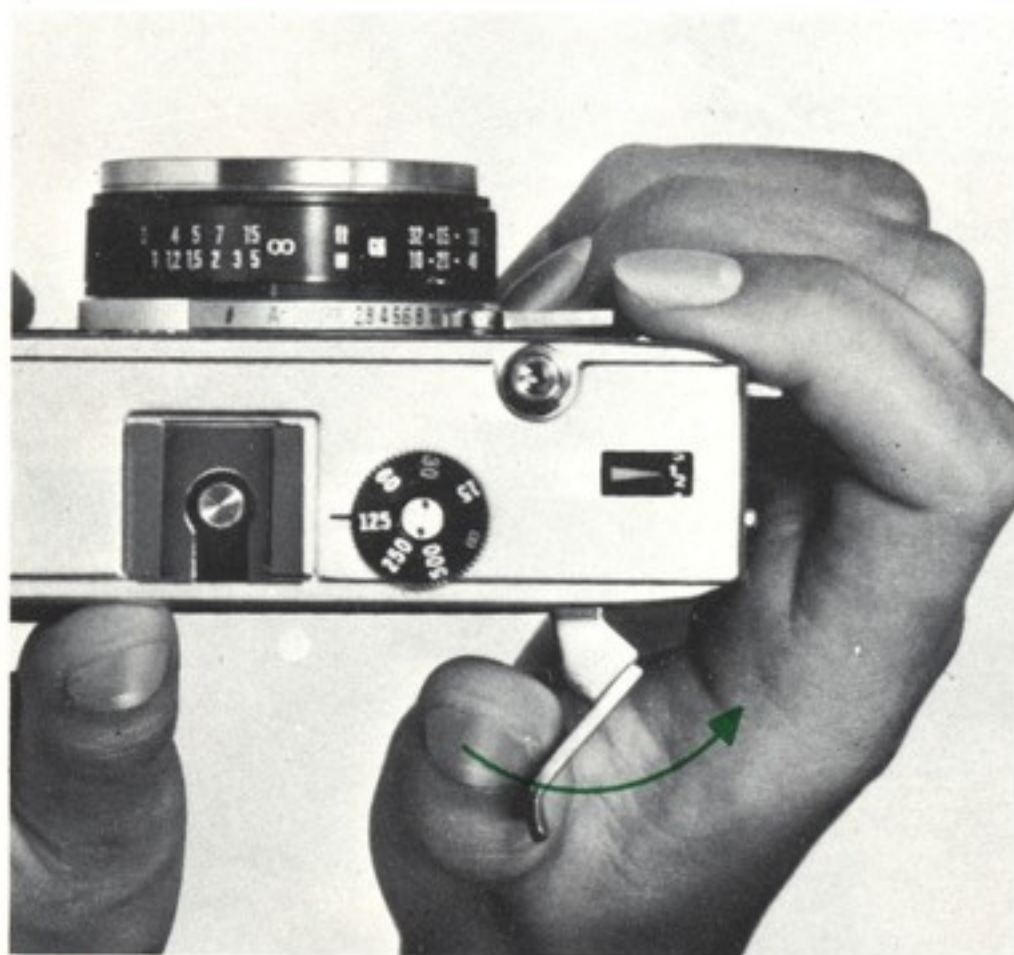
2 フィルム感度をセットします。(16頁参照)



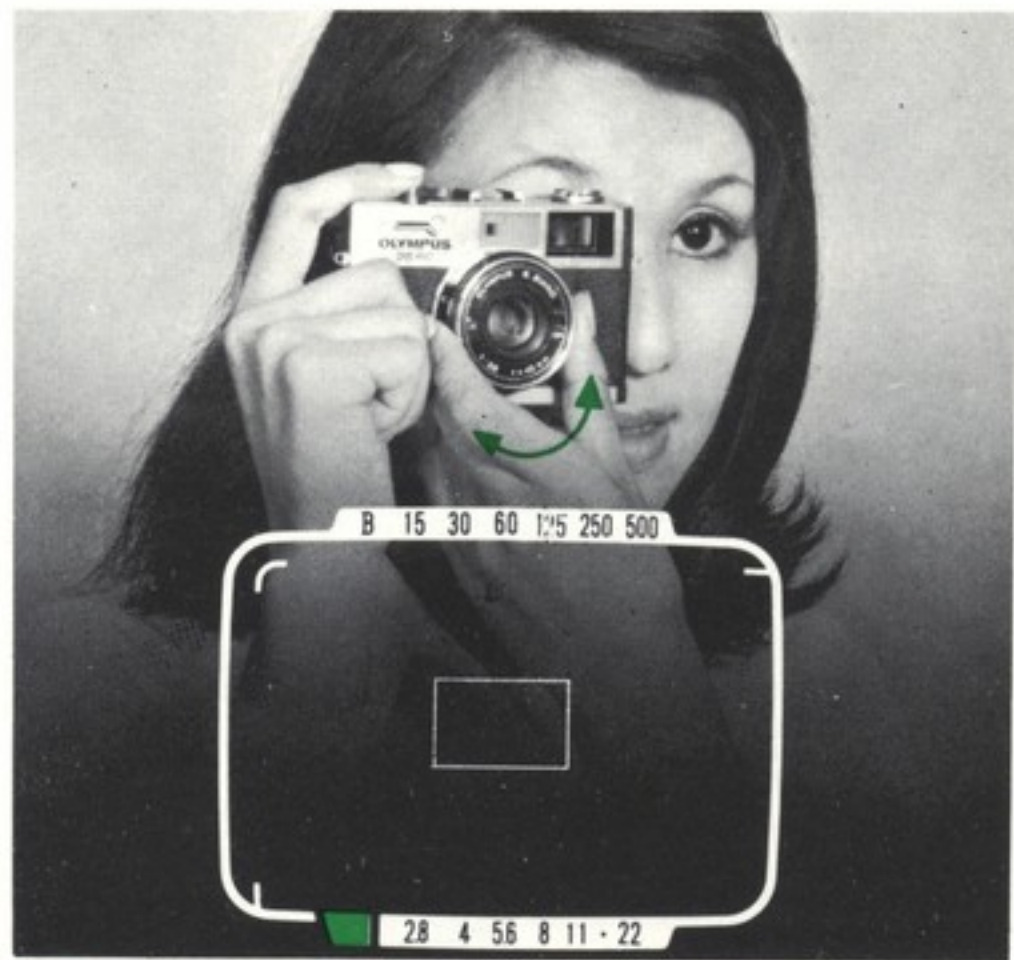
- 3** A(オート)に合わせます。(19頁参照)
 マニュアル撮影は同じ19頁、フラッシュ撮影は27頁を
 ご参照ください。



- 4** シャッタースピードを決めます。(17頁参照)
 絞りが自動的に決まるシャッタースピード優先式EEで
 す。



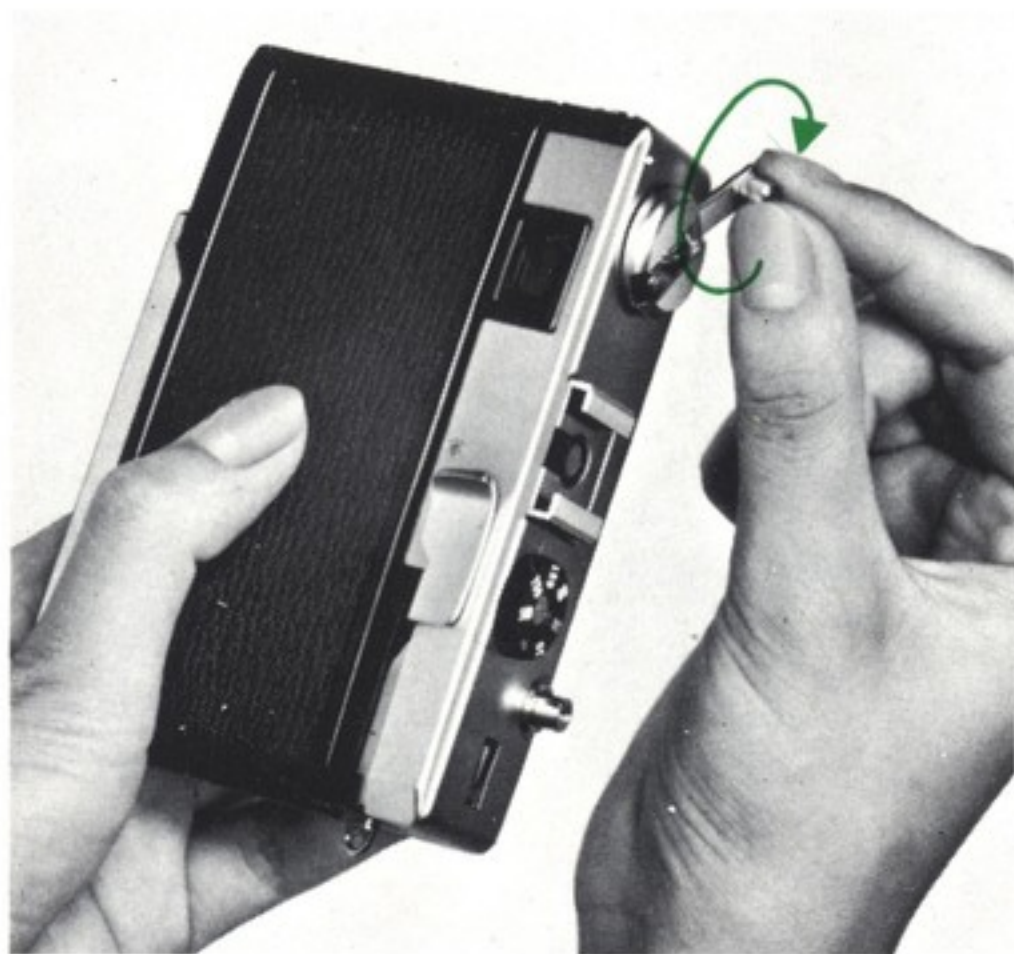
5 フィルムを巻上げます。(15頁参照)



6 構図を決めて、ピントを合わせます。(23頁参照)



7 カメラをしっかり構え、レリーズボタンを静かに押します。(25頁参照)



8 フィルム全部の撮影が終わったら、フィルムを巻戻します。(26頁参照)

●フィルムの入れかた

フィルムは、一般のパトローネ入り35ミリフィルム(12枚/20枚/36枚どりの3種類ある)を使います。フィルムは、イージー・ローディングの採用により、確実にしかも簡単に入れられます。巻取りスプールの溝(6つありますが差込みやすい所ならどこでも結構です)に、フィルムの先端を差込むだけ。もうフィルムの先がはずれるといった失敗はありません。



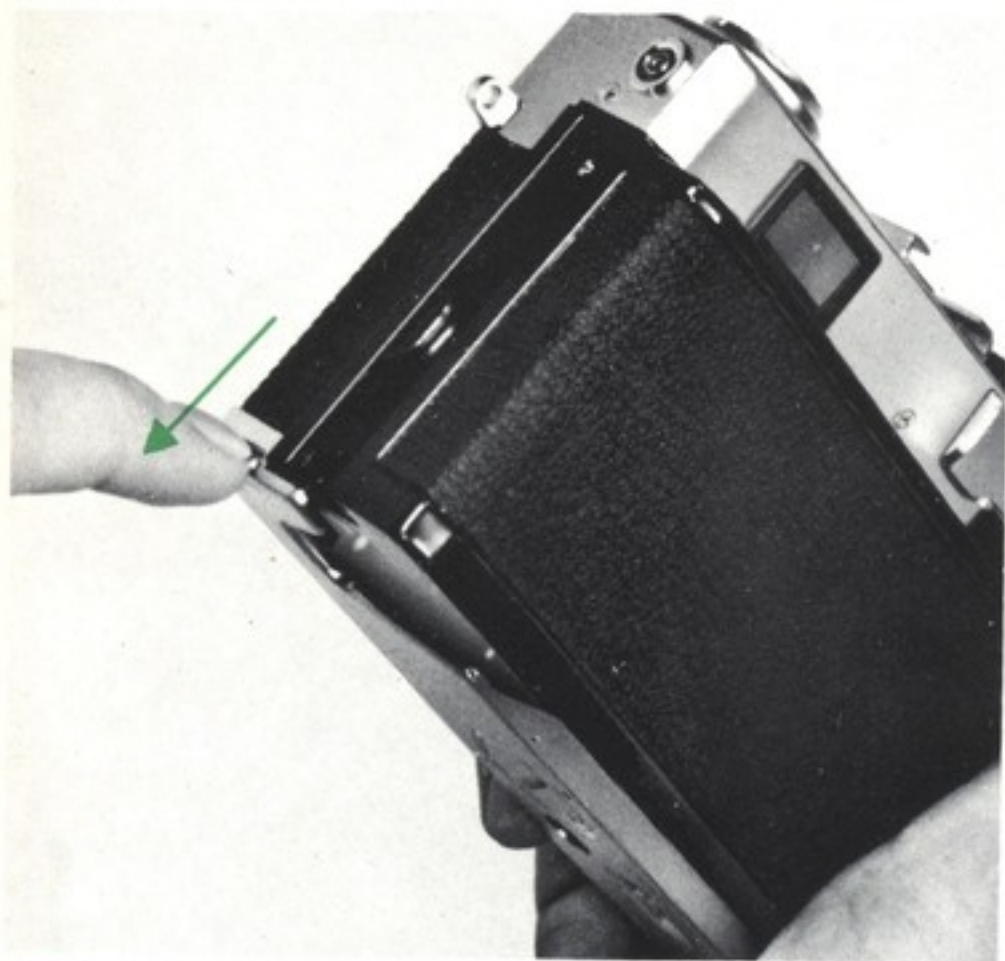
フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行うようにしてください。



1 まずA(オート)をはずしてください。

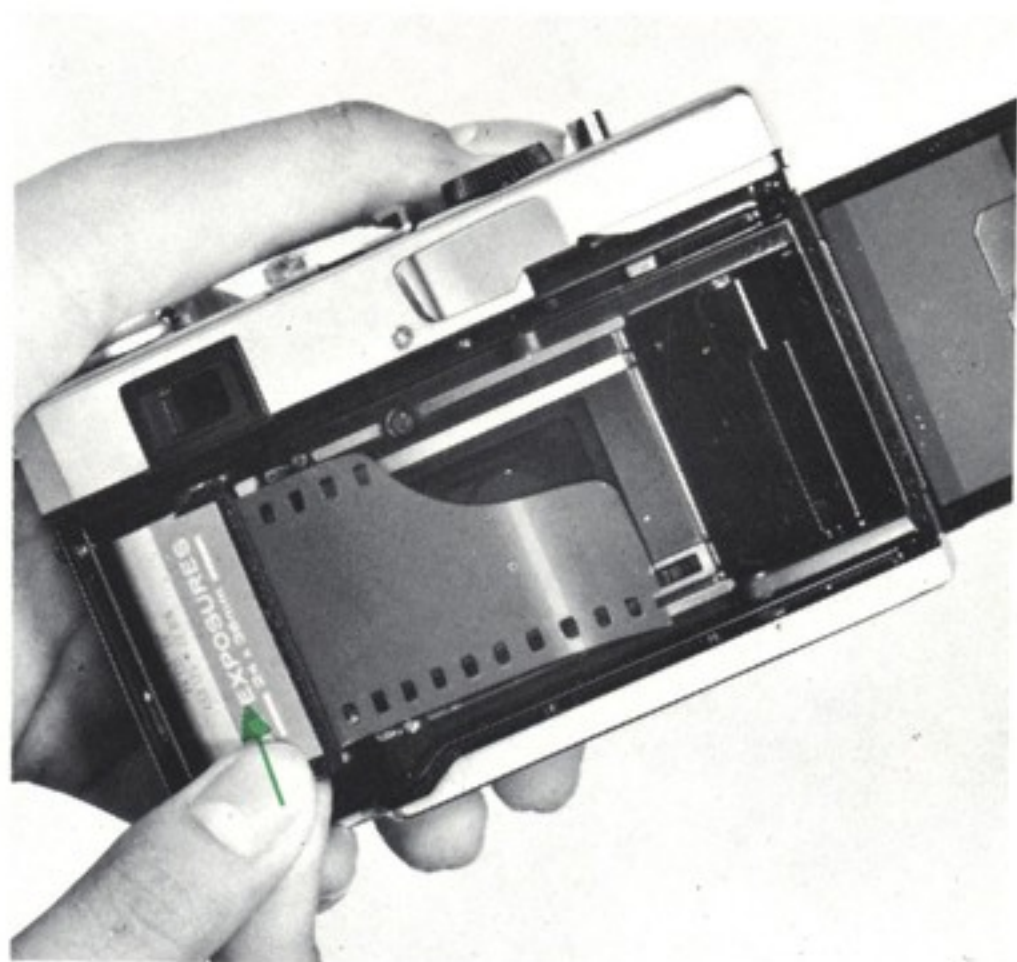
絞り環を回して、Aマークを中央赤指標からはずし、☑マークに合わせます。

※A(オート)をはずす理由は、周囲が暗いとリリースボタンがロックされて、フィルムを入れる操作がスムーズに行われない場合があるからです。



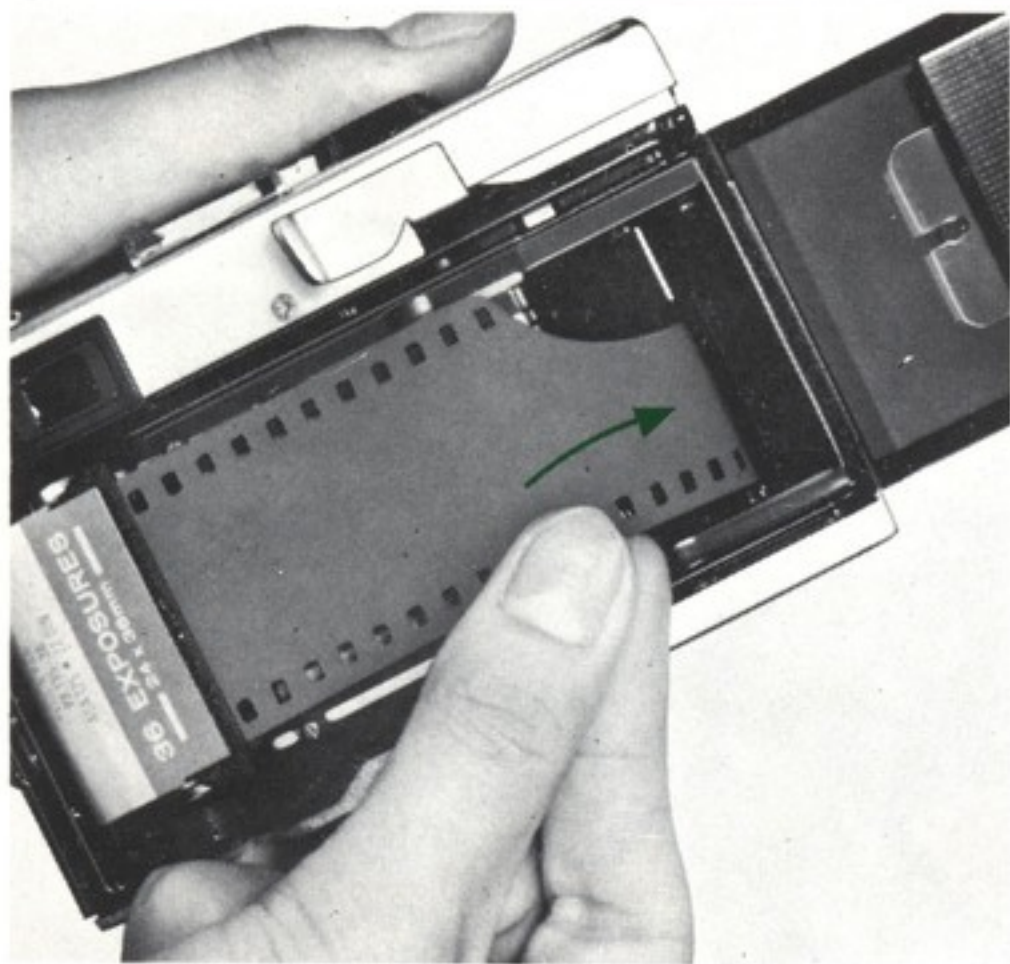
2 裏蓋をあけます。

カメラの横にある裏蓋開閉鍵を下に引くと、裏蓋が自動的にあきます。



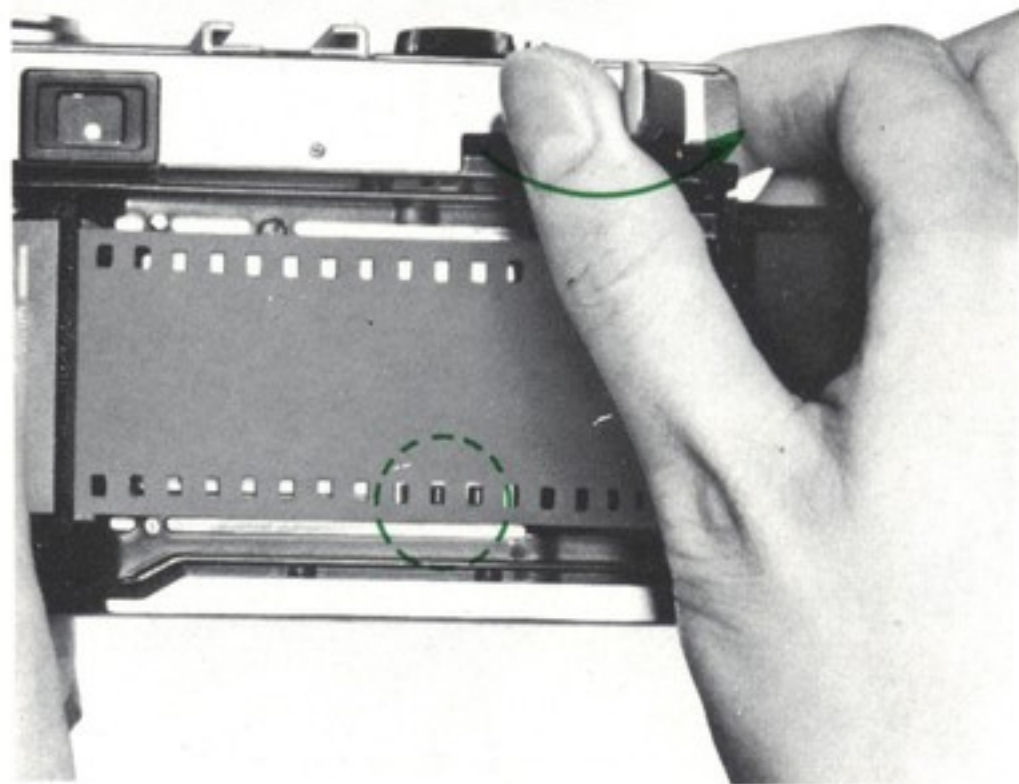
3 フィルムを入れます。

フィルムカートリッジをフィルム室に納めます。カートリッジがフィルム室にすっぽり納まらないときは、巻戻しノブを左右に少し回しながらカートリッジを押し込むと、楽にカチリと入ります。



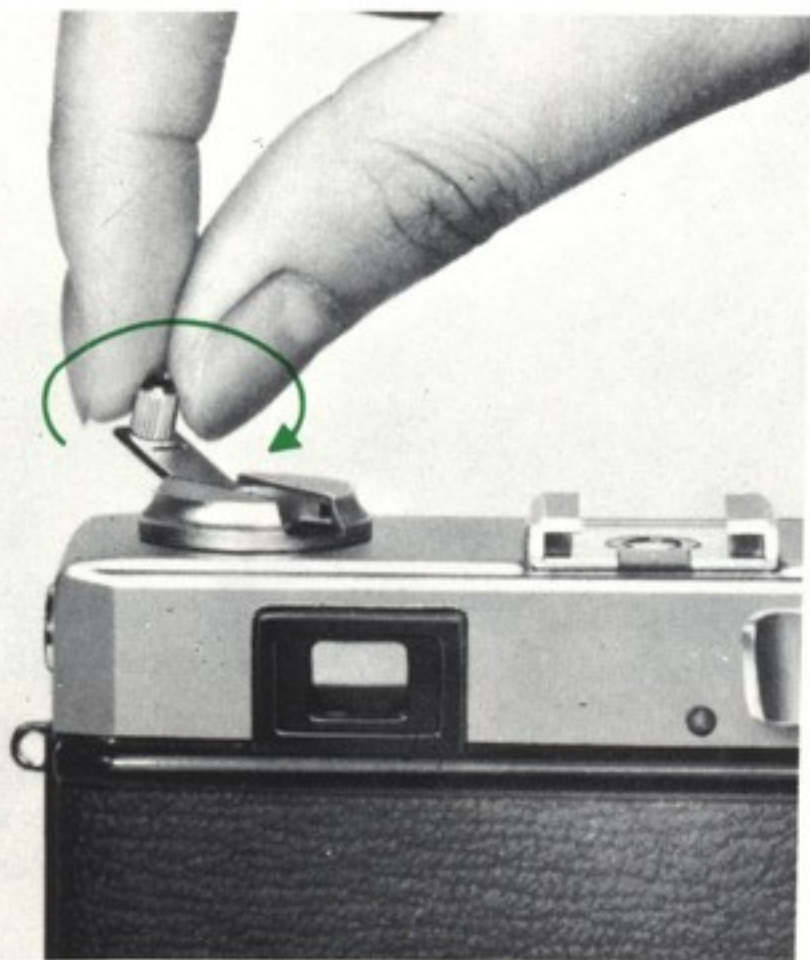
4 フィルムの先を差込みます。

右手でフィルムの先を持って少し引出し、その先端を巻取りスプールの溝の回転方向に差込みます。このときフィルムが傾かずガイドレールの上に正しく納まるようにします。

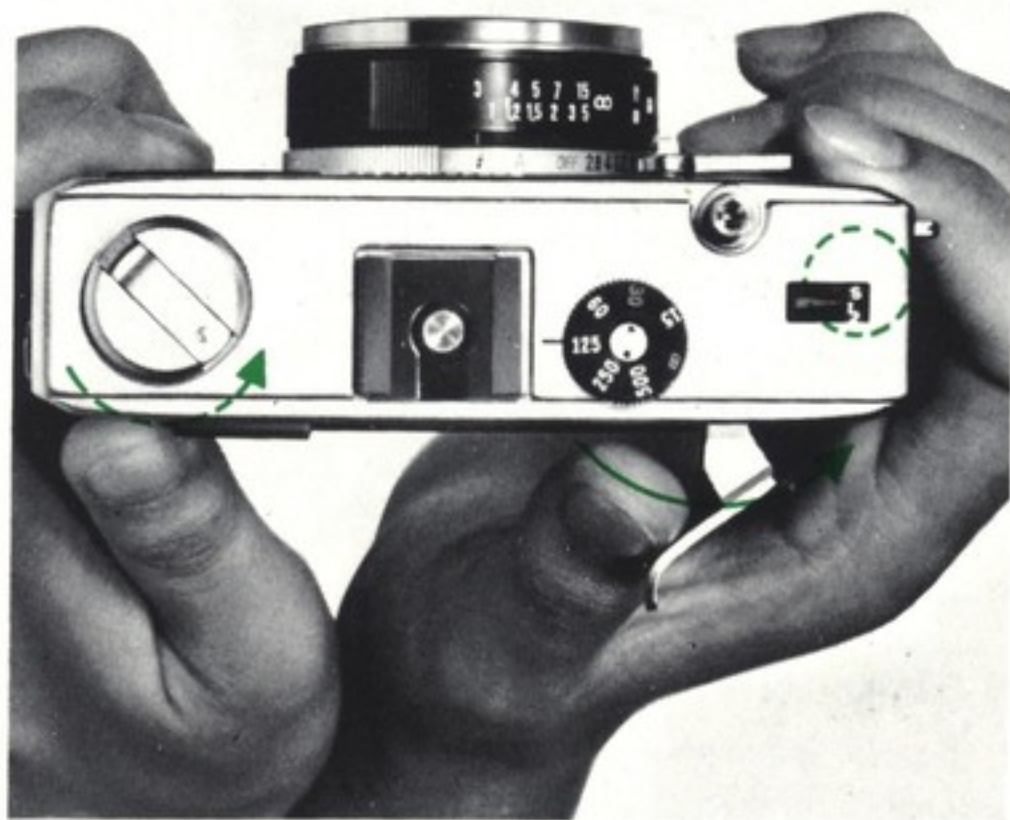


5 フィルムを巻上げます。

次に巻上レバーでフィルムを巻上げ、パーフォレーション(穴)をスプロケットの歯車にかみ合わせ、確実に巻取ります。

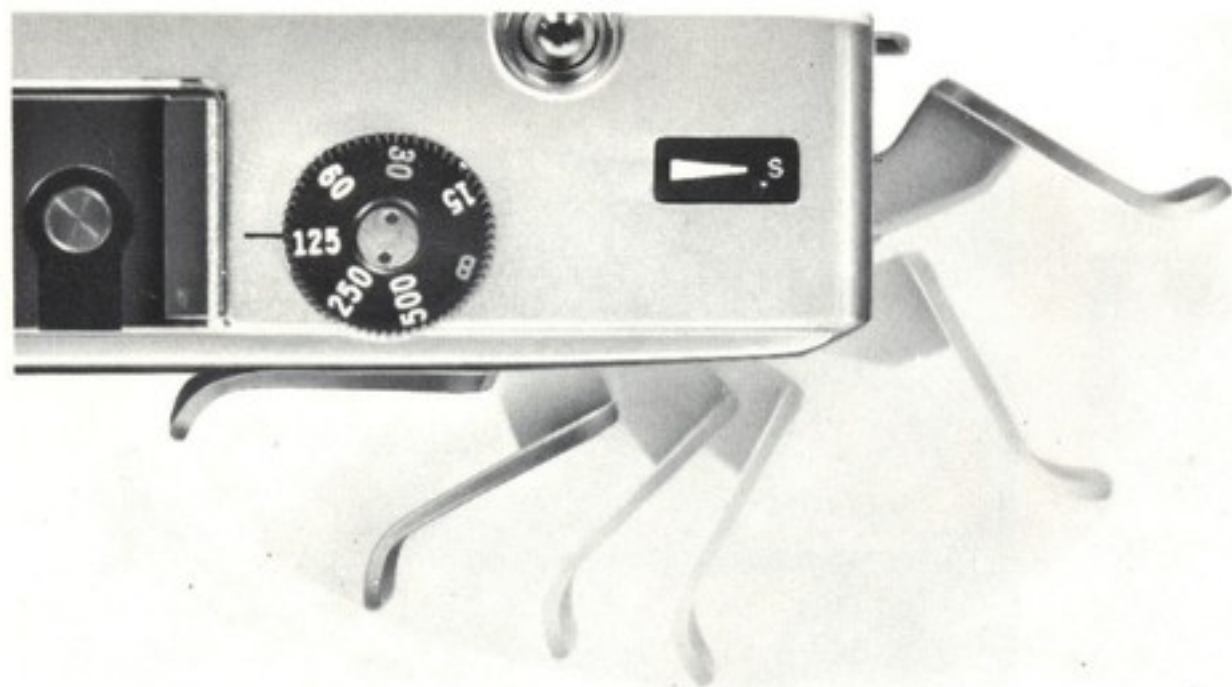


6 裏蓋を閉じて、フィルムのだるみをとります。
 フィルムが外側のガイドレールの中に正しく入り、パーフォレーションがスプロケットの歯にしっかりかかっていることを確認してから、裏蓋を静かに押していくとカチリと閉じます。
 ここで念のために巻戻しクラックを起し、ノブが重く感じるまで軽く矢印の方向に回して、フィルムのだるみをとっておきます。



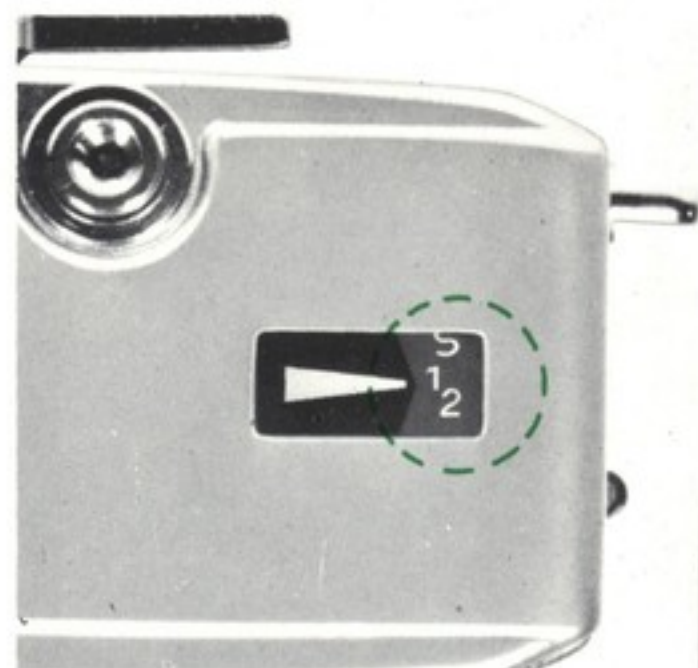
7 フィルム駒数計を1にします。
 フィルムを巻上げてレリーズボタンを押す——この空写し操作を2回行い、さらに1回巻上げますと、フィルム駒数計は1になります。ここから撮影に入れます。
 なお空写しの途中で巻戻しノブが巻上につれて回ります。これはフィルムが正しく送られている証拠です。

● フィルム巻上レバー



1. 巻上レバーが止まるまで回すと、フィルムが1駒分巻上げられ、シャッターがセットされます。(巻上角150°)
この巻上操作は、何回もの小さきみに分けて巻上げることでもできます。そのため片手操作がOK！荷物がある場合などは便利です。
2. レリーズボタンを静かに押します。シャッターが切れて再び巻上ができます。
二重露出防止になっていますから、フィルムが完全に巻上げられていないと、レリーズボタンは押せません。

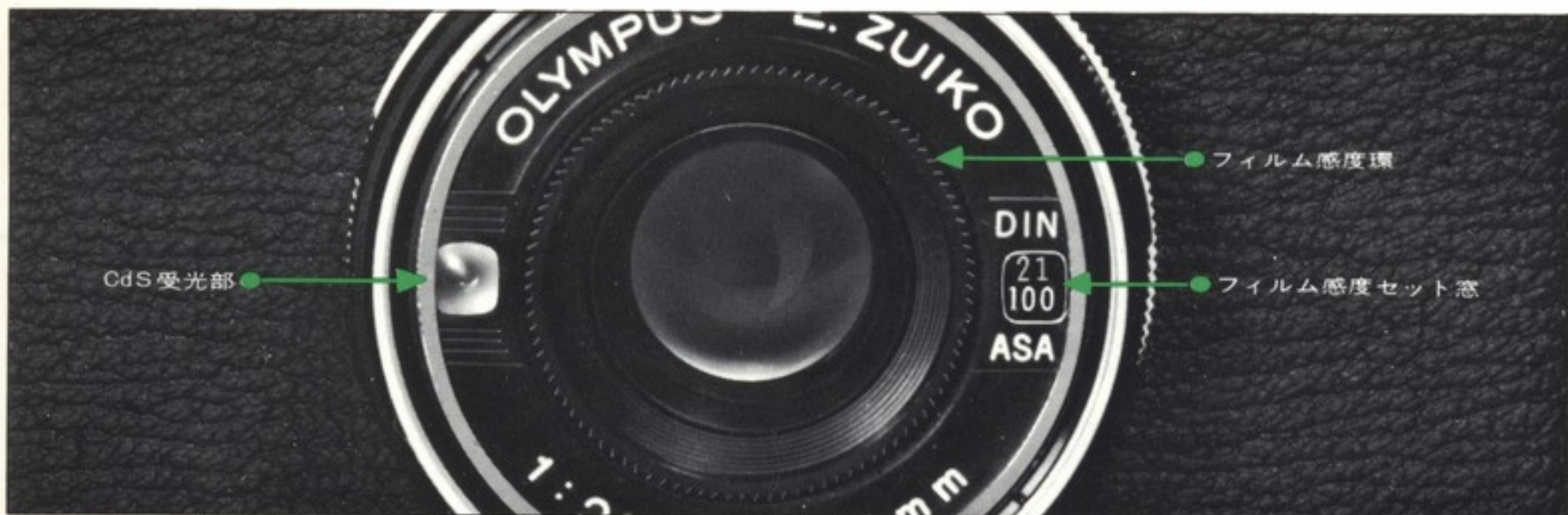
● フィルム駒数計



フィルム駒数計には、S (スタート) から36までの数字がS 1 2・4・6と以下偶数で表示されています。このうち市販パトローネ入りフィルムの指定撮影枚数にあたる12、20、36は黄色です。

フィルムを巻上げると、1駒分ずつ動きオレンジ色の矢印の先に撮影枚数が示されます。指定枚数の撮影が終ってフィルムを巻戻してから裏蓋をあけますと、フィルム駒数計は自動的にSの位置に戻ります。

● フィルム感度環



フィルム感度は、後述のシャッタースピードと絞りと共に露出決定の3大要素です。特にオート（自動露出）撮影の場合、フィルムの箱に記載された数値（ASAまたはDINでの感度表示）を間違わずにセットすることが正しい露出を得るための基本的な条件になります。

レンズのまわりにフィルム感度環があり、その両側にフィルム感度セット窓とCdS受光部があります。フィルム感度環を指先で動かし、フィルム感度セット窓に使用するフィルムの感度ができるようにします。

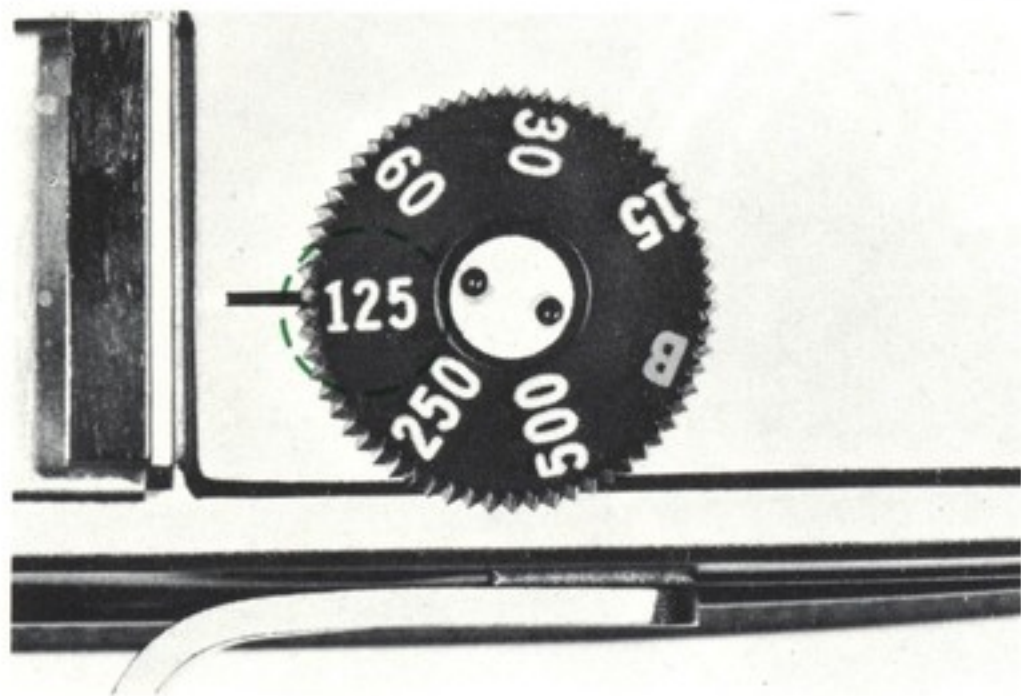
※フィルム感度は、中間の目盛は使えません。必ずクリックで止まった状態でお使いください。

※ASAおよびDINは、どちらもフィルムが光に感じる度合を示す単位です。フィルム感度の数値を大きくするにつれて、CdS受光部の穴が大きくなりCdSへ入る光の量が調節されます。

ASA	25	32	50	64	80	100	125	160	200	250	400	500	800
DIN	15	16	18	19	20	21	22	23	24	25	27	28	30



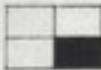
※ASA 40 (DIN 17)のフィルムを使用する場合にはASA 32 (DIN 16)のところで使用してください。

● シャッターダイヤル



シャッターダイヤルには、B、15、30……500と7段階の数字が刻まれています。Bはバルブ露出のことで、リリースボタンを押している間中シャッターが開き、放すと閉じます。マニュアル（手動露出）撮影で長時間露出の場合に使います。15は $\frac{1}{15}$ 秒、以下500は $\frac{1}{500}$ 秒のシャッタースピードを表わしています。シャッタースピードは、フィルムへの露光量を調節する働きと被写体の動きに応じて高速にしたり低速にしたりして被写体の動きを表す目的もあります。

● 標準シャッタースピード表

フィルム感度 (ASA)	25～40	64～125	200～400
被写体条件			
 快晴	1/125	1/250	1/500
 曇天	1/60	1/125	1/250
 室内	1/15	1/30	1/60

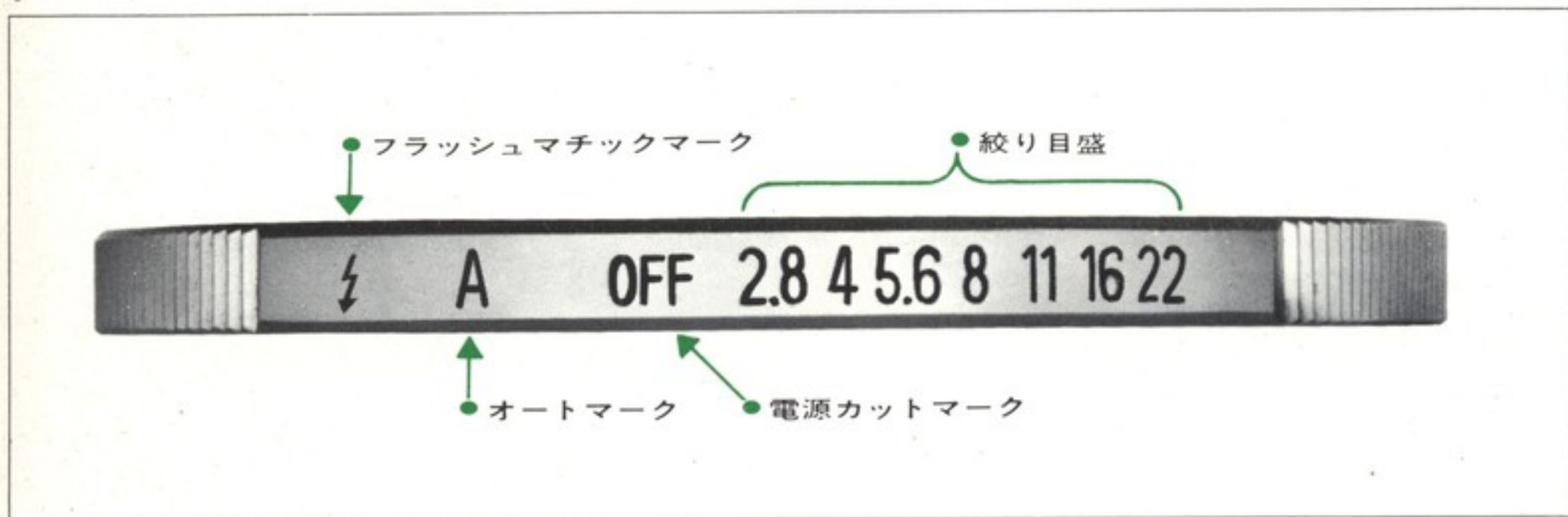
被写体条件や目的に応じて、必要なシャッタースピードを黒指標線に合わせてください。ファインダーをのぞきながらブライトフレーム上部にあるシャッタースピード目盛でも合わせられます。

※シャッタースピードは、必ずクリックで止まった状態でお使いください。数字と数字の間スピードは使えません。

そのセットは、フィルム巻上の前後いずれでも構いません。
※ブライトフレーム上部の目盛で合わせるとき、B→500または500→Bの間ではクリックに落ちこまず他秒時の目盛で止まることがありますのでご注意ください。

※オート（自動露出）撮影のときは、B（バルブ）に合わせてもリリースロックされシャッターは切れません。

● 絞り環

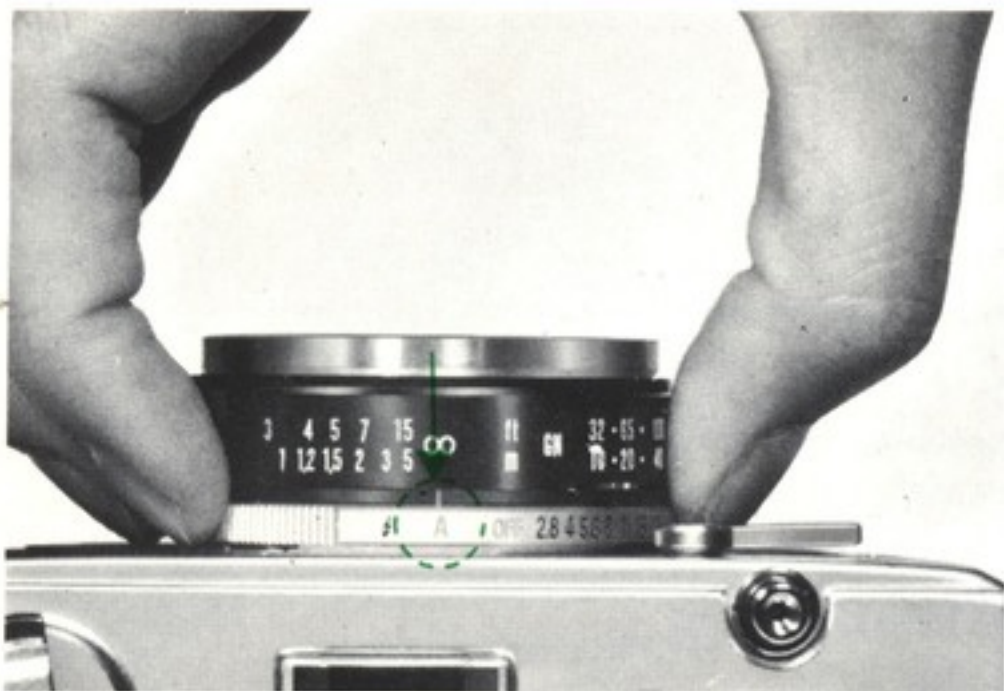


絞り環には、2.8、4……22と7段階の絞りと⚡、A、OFFの3つのマークが刻まれています。絞り数値は、大きくなればなるほど絞りの径が小さくなりフィルムにとどく光量を調節します。また絞りは絞れば絞るほどピントの合う範囲が広がる性質をもっています。(24頁被写界深度の項参照)

マニュアル撮影のときは、被写体条件や目的に応じて必要な絞り数値を中央赤指標に合わせてください。
※絞り数値は、シャッタースピードと違って中間の目盛が使えます。

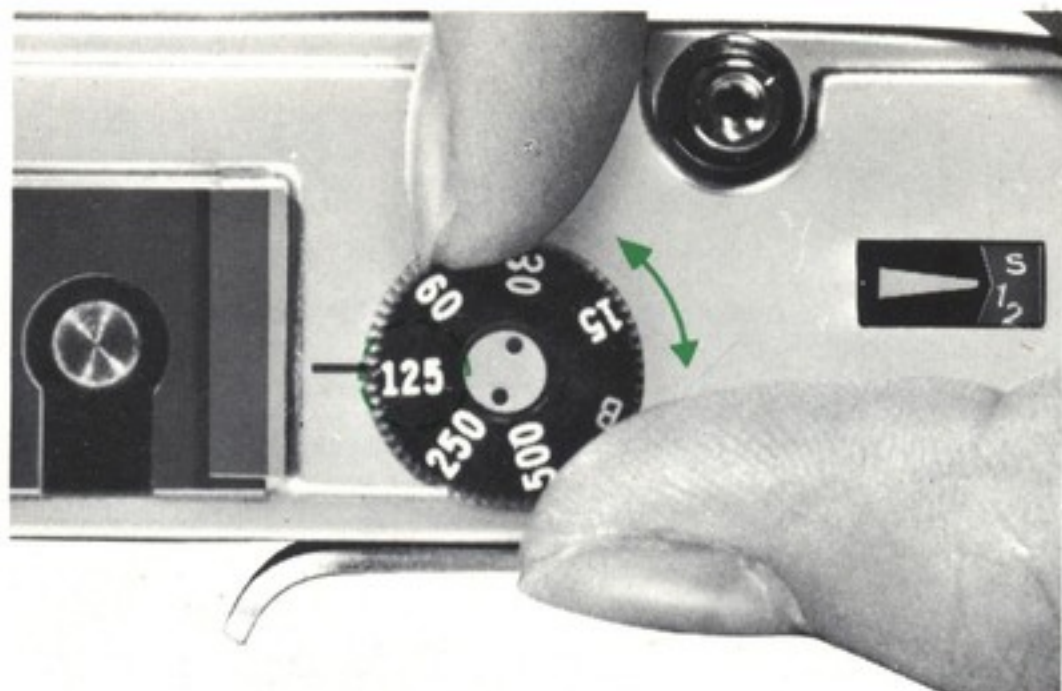
- Aに合わせますとオート(自動露出)撮影になり、シャッタースピードを決めれば自動的に絞りが決まります。そのときの絞りは、レリーズボタンを押すとファインダー内の絞り目盛に指針があらわれることで知ることができます。(19頁参照)
- ⚡に合わせますとフラッシュマチック撮影になり、GN(ガイドナンバー)をセットしてピントを合わせれば、撮影距離に応じて自動的に正しい絞りが決まります。(27頁参照)
- OFFに合わせますと電源が切れてレリーズロックされてしまいます。カメラを使用しないときはこの状態にしておくで電池の消耗が防げます。

●露出の決めかた



オリンパス35RCは、シャッタースピード優先のオート(自動露出)撮影ができるのみならず、必要に応じてオートをはずしマニュアル(手動露出)にして、シャッタースピードと絞りが自由に決められるのが特色です。

auto ⇄ manual



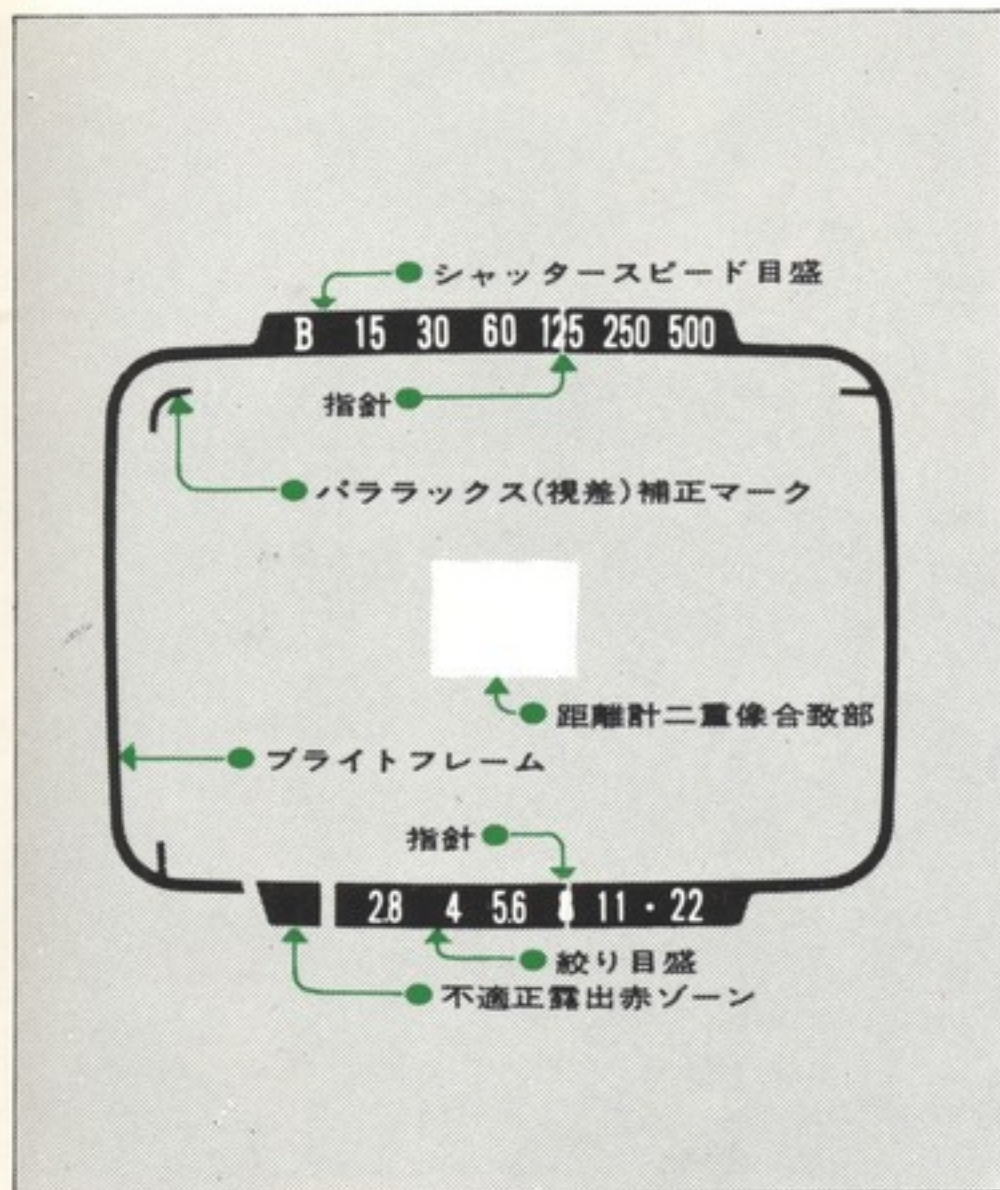
●オート撮影

絞り環を回してA(オート)を中央赤指標に合わせます。次に撮影条件に合ったシャッタースピードを選んでセットしてやれば、絞りは自動的に決まります。シャッタースピードおよびそのときの絞りは、次頁のようにファインダー内で確認できます。

●マニュアル撮影

シャッターダイヤルおよび絞り環を回して、適当なシャッタースピードと絞りをセットしてください。撮影者の意志の入った写真が写せます。なおマニュアル撮影の場合オート撮影と違って、水銀電池がなくても使えます。

● ファインダー内での露出のみかた



● シャッタースピード目盛

指針がシャッターダイヤルと連動しており、撮影時のシャッタースピードが確認できます。

● 絞り目盛

オート撮影・マニュアル撮影・フラッシュ撮影のいずれの場合にも、リリースボタンを軽く押すと、指針があらわれて撮影時の絞りが確認できます。

● 不適正露出赤ゾーン

指針がこの赤ゾーンに入ってしまうときは、被写体が暗すぎたり、明るすぎたりする場合があります。リリースロックがかかりシャッターが切れません。明るすぎる場合はシャッタースピードを早く、暗すぎる場合は遅くセットし直す必要があります。なおこの場合シャッタースピードが $\frac{1}{5}$ 秒でもリリースロックがかかるときは撮影を中止するか、オートをはずしてフラッシュ撮影をしてください。反対に明るすぎてシャッタースピードが $\frac{1}{50}$ 秒でリリースロックがかかるときは、NDフィルターを使用して撮影してください。

● 特殊な露出のテクニック

● 被写体が暗く周囲が明るい場合

特に逆光撮影の場合は、そのままオート撮影してしまうと背景の明るさに影響されて、かんじんの被写体が露出不足になってしまいます。フィルム感度環を反時計方向に回し、フィルム感度を1～2段おとして合わせてください。例えばASA100のときは、ASA50～25に合わせますときれいに写せます。

またはカメラを被写体に向けてファインダーをのぞきリリースボタンを軽く押すと、そのときの絞り目盛が読みとれます。絞り環を回しA（オート）をはずして、その読みとった数値より1～2絞り開いた目盛に合わせてください。

● 被写体のみが明るく周囲が暗い場合

窓越しに風景を撮影するときのように暗い所から明るい所を撮影する場合にも、周囲の暗さに影響されて実際に写したいものが露出過度になることがあります。フィルム感度環を時計方向に回し、フィルム感度を1～2段あげて合わせてください。例えばASA100のときは、ASA200～400に合わせますときれいに写せます。

または前述のようにA（オート）をはずして、読みとった絞り数値より1～2絞り絞った目盛に合わせてください。

注意：これらの撮影が終わったら、必ず元の感度目盛に戻しておくことを忘れないでください。A（オート）をはずしたら、Aに合わせておくことが大切です。





●日中シンクロ

木陰での人物撮影のように、被写体を明るくしてしかも周囲の風景を適正露出で写したいという場合があります。かなり高等なテクニックになりますが、補助光としてフラッシュを使って撮影しますと美しい写真が撮れます。

露出は下記の要領で決めてください。

この場合フラッシュはストロボが最適です。まずストロボとフィルムによって決まるガイドナンバーをセットしてください。そしてフィルムを巻上げない状態で次のようにします。

絞り環を回し $\frac{1}{2}$ にセットしてから、被写体にピントを合わせリリースボタンを軽く押しそのときの絞り目盛を読みとります。仮りにF 5.6になったとします。次に絞り環をAにセットし直し、シャッターダイヤルを回して軽くリリースしたときに絞り目盛の指針がF5.6のところになるようにシャッタースピードを決めてください。こうすれば、外景も人物も適正な露出が得られ理想的な日中シンクロ撮影が行えます。35RCの情報ファインダーの威力です。

● 構図とピント



● 構図の決めかた

ファインダーをのぞいてみると、その周囲に明るい光の枠がみえます。これをブライトフレームといい、この内側に入るものが実際に写ります。撮影のときは、このブライトフレーム内いっぱいに入るようにして構図を決めてください。

なお1m以内の近距離撮影のときは、ブライトフレームの内側にあるパララックス(視差)補正マークがかこむ範囲に、写したいものが入るようにします。



● ピントの合わせかた

ファインダー中央の明るい長方形の部分(距離計二重像合致部)でピントを合わせます。ファインダーをのぞきながら、写したい被写体を中央にもってきて距離環を回すと、この部分の二重像がピッタリと合致してハッキリみえるようになります。このときがピントの合ったときです。

※距離目盛はm(メートル・白色)とft(フィート・オレンジ色)の両方で刻まれ、中央指標に合ったところが、被写体までの距離を表わしています。

●被写界深度

ある距離にピントを合わせたとき、その距離にあるものが一番ハッキリ写るのは当然です。しかしレンズの一般的な性質として、その前後にもハッキリ写る範囲があります。これを被写界深度とよび、この範囲が広いことを深度が深いといいます。深度は、絞りを絞るほど深くなります。

マニュアル撮影で、例えば距離3m、絞り16に合わせたとします。右の被写界深度表をごらんください。1.47mから無限遠までピントが合うことがわかります。この点を利用すれば、スナップ撮影でいちいちピントを合わせ直す必要がなく大変便利です。

またオート撮影の場合の絞り数値は、ファインダー内の絞り目盛でわかります。被写界深度を利用する場合は、シャッタースピードの方で調節します。シャッタースピードを遅くすれば絞りは絞られ、逆に早くすれば絞りは開かれます。

●EズイコーF2.8 f=42mm 被写界深度表

※印は距離環に刻まれている目盛を示す。

距離目盛 絞り	焦点を合わせた距離 (m)								
	0.9	※1	※1.2	※1.5	※2	※3	※5	10	※∞
2.8	0.86~ 0.95	0.95~ 1.06	1.12~ 1.29	1.38~ 1.65	1.78~ 2.28	2.52~ 3.71	3.78~ 7.39	6.05~ 29.04	15.10~ ∞
4	0.84~ 0.97	0.93~ 1.09	1.09~ 1.33	1.33~ 1.72	1.71~ 2.42	2.37~ 4.09	3.45~ 9.14	5.23~ 122.0	10.79~ ∞
5.6	0.82~ 1.00	0.90~ 1.13	1.05~ 1.39	1.27~ 1.83	1.61~ 2.65	2.19~ 4.79	3.07~ 13.71	4.40~ ∞	7.71~ ∞
8	0.79~ 1.05	0.86~ 1.19	1.00~ 1.50	1.20~ 2.02	1.49~ 3.07	1.96~ 6.47	2.64~ 55.35	3.55~ ∞	5.39~ ∞
11	0.75~ 1.12	0.82~ 1.29	0.95~ 1.66	1.12~ 2.32	1.36~ 3.86	1.74~ 4.51	2.25~ ∞	2.87~ ∞	3.93~ ∞
16	0.70~ 1.27	0.76~ 1.49	0.86~ 2.01	1.00~ 3.10	1.19~ 6.76	1.47~ ∞	1.80~ ∞	2.18~ ∞	2.69~ ∞
22	0.65~ 1.50	0.70~ 1.83	0.78~ 2.71	0.89~ 5.24	1.04~ 77.86	1.24~ ∞	1.46~ ∞	1.69~ ∞	1.96~ ∞



● カメラの構えかた



美しい写真を撮るには、カメラをしっかり構えなければなりません。ピントの悪い写真の多くは、カメラブレが原因です。カメラに慣れるまでは、フィルムを入れなくて何回も練習してみてください。

リリースボタンは、指を立てずに指の腹で静かに押します。シャッターを切るときは、一瞬息を止めるようにするのがコツです。そのとき指やケースなどが、レンズやCdS受光部にかからないように注意してください。

構えかたは、構図によってタテ位置でもヨコ位置でも自由です。

- ヨコ位置に構えるときは、両腕をからだからはなさないようにします。特に左ひじをからだにしっかりつけるとカメラが安定します。
- タテ位置に構えるときは、右ひじをからだにしっかりつけて、左手でカメラをひたいに押しつけて動かないように保持します。

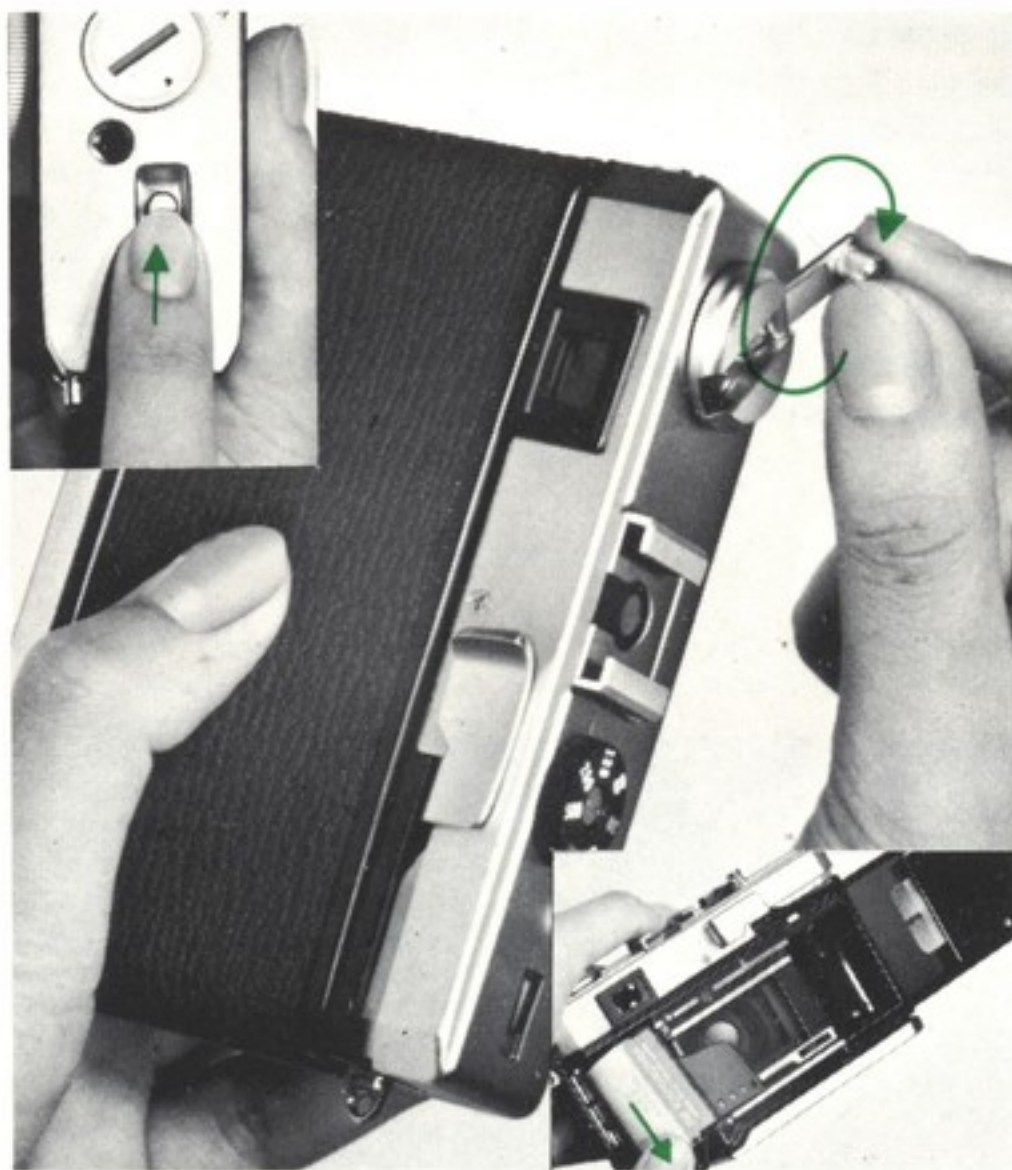


● フィルムの巻戻しかた

撮影が終わったらフィルムを巻戻します。撮影し終わったかどうかは、フィルム駒数計が12（12枚どりフィルム）か20（20枚どり）または36（36枚どり）になったことでわかります。

1. まずカメラ底部にある巻戻しボタンを押込みます。一度押込めば、ボタンはそのままロックされます。
2. 次に巻戻しクランクを起こして、クランクの矢印の方向に回してください。フィルムを巻戻している間は、クランクが重く感じられますが、フィルムが巻戻されてスプールからフィルムの先端がはずれると、急に軽くなります。
3. 巻戻しが終わったら、直射日光の当たらないところで裏蓋をあけてフィルムパトローネを取出してください。ひっこんだ巻戻しボタンは、1回以上の巻上操作で元の位置に戻ります。

※なおフィルムが終りになって、巻上レバーが途中で動かなくなる場合があります。そのときはフィルムが終っていますので、無理に巻上げず、撮影を中止してフィルムを巻戻してください。フィルムが終った状態で無理に巻上げますとパーフォーレーションが破れますので、指定撮影枚数を撮ったところで必ず巻戻すようにしてください。



●フラッシュ撮影のしかた

室内や暗い所での撮影や日中でも補助光がいる撮影には、フラッシュバルブやストロボを使ってフラッシュ撮影をしてください。

オリンパス35RCのアクセサリシューはコードレス接点付ですので、超小型ペンフラッシュCLやオリンパスPS100Gがコードなしで使えて大変便利です。またフラッシュマチックシステムを採用してあるため、面倒な露出計算がいらす簡単にフラッシュ撮影が楽しめます。

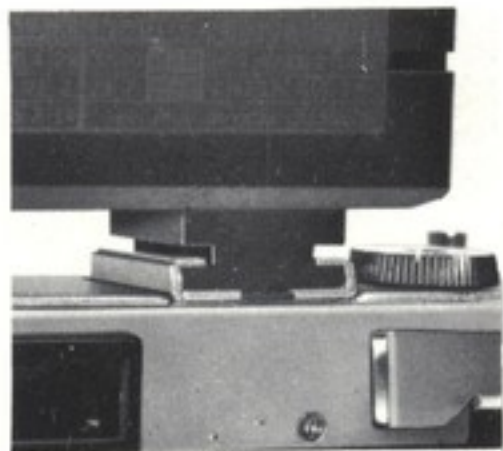


1 フラッシュ装置を取付けます。

- a) ペンフラッシュCLやオリンパスPS100Gは、カメラ上部のアクセサリシューに差込むだけで電氣的に接続します。(他の製品でもダイレクトコンタクトの付いているものは同様です。)



- b) 一般のフラッシュガンやストロボを使用する場合には、その取付足をアクセサリシューに差込み、接続プラグをカメラのシンクロソケットに取付けます。



2 露出を決めます。

フラッシュ撮影におけるシャッタースピードは、フラッシュバルブを使用する場合には1/30秒（赤色）を使ってください。ストロボの場合には、1/500秒までの全スピードが同調して使えます。

a) フラッシュマチックを使用する場合

※使用するフラッシュ装置がきまっている場合には、フィルムを入れると同時にガイドナンバーをセットしておけばフラッシュ撮影がじん速に行なえます。

まず絞り環を回して、 \downarrow マークを中央赤指標に合わせます。次に使用するフラッシュバルブやストロボ、およびフィルムの種類やシャッタースピードなどにより決定したガイドナンバーを、距離環についているガイドナンバーレバーを押しながらガ

		(45)	(90)	
ft	GN	32	65	130
		\uparrow	\uparrow	
m		10	20	40
		\downarrow	\downarrow	
		(14)	(28)	



イドナンバー目盛にセットします。あとは被写体にピントを合わせれば、その撮影距離に応じて露出計算はカメラが自動的にやってくれ、適正な絞りが決まります。

b) フラッシュマチックを使用しない場合

※ガイドナンバーが10以下または40以上のときや、バウンドフラッシュとして使用するときなどにこの方法を使います。

まず被写体にピントを合わせて、そのときの距離を読みとります。その数値で、使用するフラッシュバルブやストロボのガイドナンバー（フィルム感度やシャッタースピードによっても違う）を割って、その数値に近い絞りを選んでカメラにセットしてください。

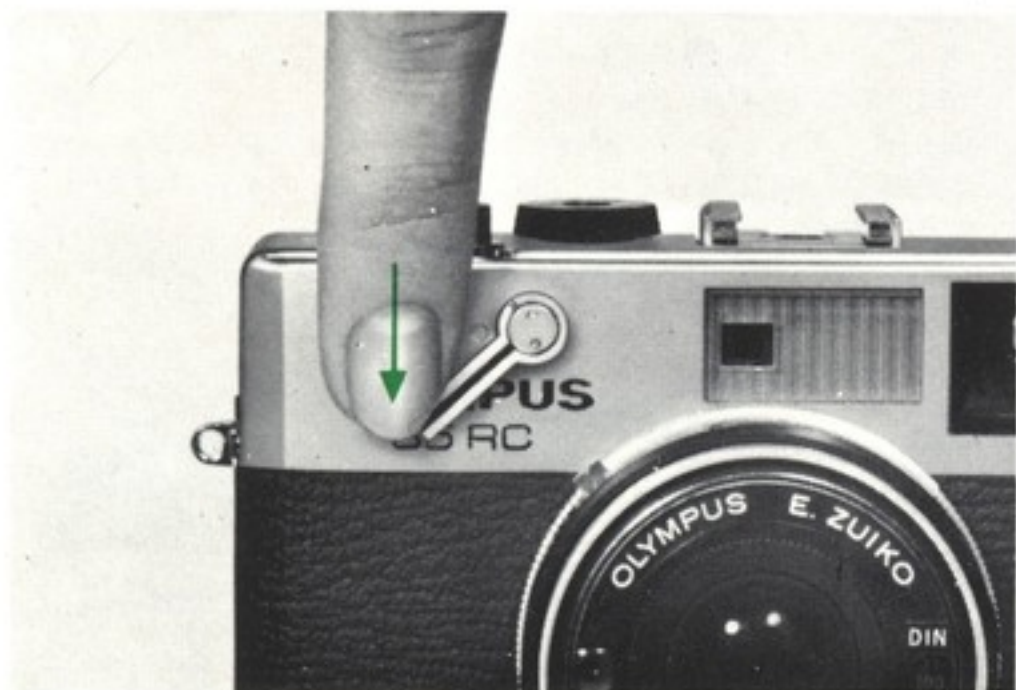
例えば、フラッシュバルブのガイドナンバー56（ASA 100）で距離5mなら $56 \div 5 = 11.2$ ですから、絞りを11に合わせれば適正露出になります。

一般にはフラッシュ装置にすでに計算された露出表が付いておりますので、それに従ってください。

● セルフタイマーの使いかた

他人の手を借りずにご自分の記念撮影ができる便利なセルフタイマーが内蔵されています。グループでの撮影などにご自分も加わった楽しい思い出がたくさん残せます。

1. セルフタイマーレバーを写真のように下に90°倒し赤指標が合うようにするとセットされます。
2. フィルムが確実に巻上げてあるかどうかを確認します。
3. レリーズボタンを押すとセルフタイマーが作動し約10秒後にシャッターが切れます。



- シャッタースピードは、B（バルブ）以外のものに合わせて使ってください。
- セルフタイマーレバーのセットは、フィルム巻上の前後いずれでも構いません。
- フィルムが確実に巻上げられていなかったり、オート撮影で不適正露出である場合は、レリーズボタンが押せずセルフタイマーを作動させることはできません。



●カメラ保管上のご注意

- カメラの大敵はホコリと湿気です。できるだけ乾燥した空気の流通のよいところに保管してください。そのときシャッターやセルフタイマーは必ず切っておきます。
- カメラは精密機械です。落したり、大きな衝撃を与えないようにしてください。また高温(50°以上)の場所に長く放置することは避けましょう。低温(-15℃以下)で使用するときには、正規の作動をしないことがありますので、カメラを暖めてから使用してください。
- カメラをラジオ・テレビ・その他強い磁石のそばには、長く置かないようにしてください。
- レンズなどの光学部分には、指をふれないように注意しましょう。もし指をふれてしまったら、すぐ清潔なノリのついていない木綿布でふいてください。そのままにしておくと、指紋などがとれなくなってしまいます。
- 海岸で撮影したあとは、カメラの表面を柔らかい布で良く拭き、塩分などがついたままにしないでください。
- カメラを使用しないときは、電池の消耗を防ぐためにキャップをしておくかまたは絞り環のA(オート)をはずしてOFFにしてください。また長期間使用しないときは、水銀電池を取りだして保管してください。
- カメラの具合が悪い場合は、すぐ最寄りのオリンパスサービスステーションにお持ちください。

● アクセサリー



● フィルター

オリンパス35RCには、43.5mmのねじ込み式を使います。35RCの受光部は、鏡胴の正面にありますので、フィルターの露出倍数を補正をする必要はありません。またI Aフィルターは、白黒フィルムを使っても差支えないので、レンズ保護を兼ねて常用することをおすすめします。

■ フィルターの種類と性質

白黒用	U	V	有害な紫外線をカットして、鮮明な画をつくります。またレンズの保護用として、常時使用できます。	¥ 800
	Y	2	青空を暗くし白い雲をくっきり浮き出させるなど明暗の描写が強調され、立体感がでます。	¥ 800
共用	ND 4×		光の量を $\frac{1}{4}$ にします。カラー・白黒フィルム共に使用できます。	¥ 850
カラー用	I	A (スカイライト)	UV同様有害な紫外線をカットし、青味がかかった画調になるのを防ぎます。またレンズ保護用としても使えます。	¥ 850
	81C	(曇天用)	曇天または雨天で撮影するとき用いると、青味がかかった色にならずに写ります。	¥ 850
	82C	(朝夕用)	朝や夕方など赤い光の多い時間に撮影するとき用いると、黄赤味がかかった色にならずに写ります。	¥ 850



- フード……………¥ 600
レンズの画角以外から入る有害な光線を防ぎます。逆光や半逆光などの撮影の場合に必ずお使いください。携帯のときは、逆さにするとレンズの鏡胴にスッポリかぶさりますので、そのままカメラのケースに納まります。



- ペンフラッシュCL
(コードレス)……¥800
AG-1、AG-1B (カラー用)の2種類のバルブを使うコード不要の世界最小のフラッシュガンです。



- オリンパスPS100G……………一式 ¥6,500
 - 〈本体(電池・ACコード付) ¥6,150 ケース ¥350〉
 コンパクトカメラにふさわしい小型軽量ストロボ。アクセサリシュー(コードレス接点付)に差込むだけで、電氣的に接続します。アルカリ乾電池2本の電源で、200回以上発光する人工太陽。ACコード付ですから、ご家庭の電灯線から直接電源がとれます。
 - おもな性能 ●ガイドナンバー：ピーク時で18(m) (ASA100) カラー・白黒共通
 - 発光間隔：DC / 新電池(アルカリ) 7秒、AC / 7秒
 - 色温度：デイトライトタイプカラーフィルムに最適
 - 大きさ・重量：86×59×29mm、120gr (本体のみ)

● アクセサリー



アタッチメントレンズ

f=30cm 43.5mm

……………¥1,300

レンズの前にねじ込んで使用する近接撮影用補助レンズです。距離目盛を ∞ にしたとき、レンズの前端より29.6cmまで近づけ、そのときの写る範囲は17.0×25.4cmです。小動物や草花の生態撮影、文献の複写、静物の近接撮影などにご活用ください。

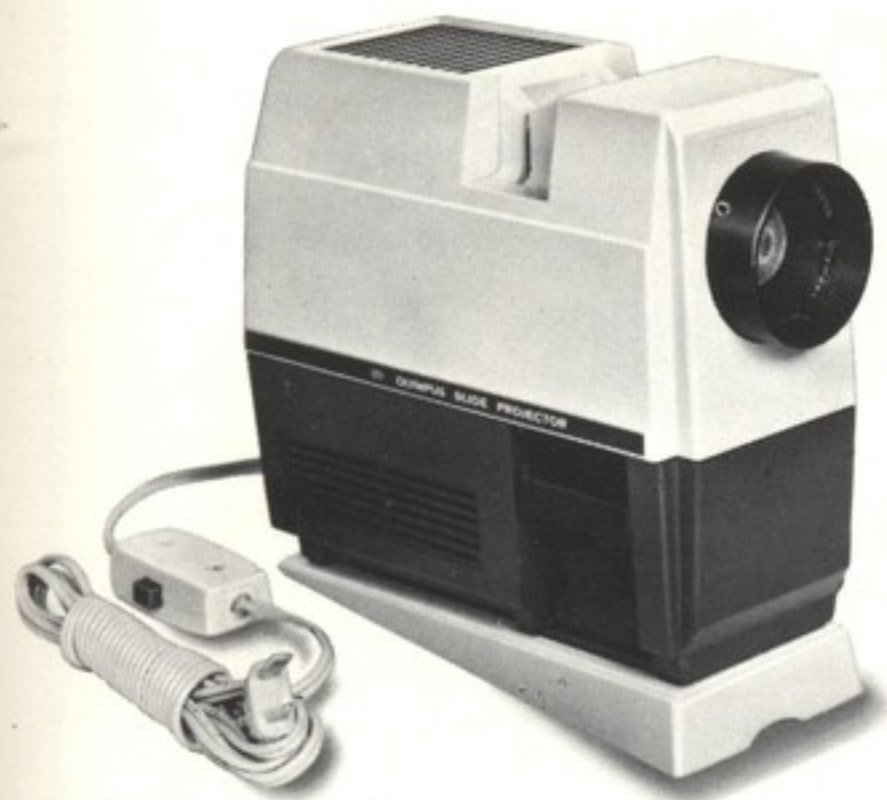


● ペンアップ3 …………… ¥ 3,500

文献、図書、写真、資料などの複写撮影はもちろん小動物の生態写真や静物の近接撮影ができる便利な接写装置です。

f=30cm 43.5mmのアタッチメントレンズを併用の場合、1段に組立てて17.0×25.4cmの範囲が写せます。

なおペンアップ3単独では使用できません。



● オリンパススライドプロジェクター ¥7,200
ケース ¥600

カラーライドは、プロジェクター（投影器）で大きく映写して楽しむのが一番です。オリンパススライドプロジェクターは、明るいF2.8レンズ付で、クーラーが内蔵されており、長時間映写しても熱くならず、大切なライドを保護し、美しいカラーが安定した状態で楽しめます。

扱いかたは、マウントイージーチェンジ方式でまったく簡単。マウントをただ上からプッシュするだけ。——誰にでも操作できる設計です。

■ おもな性能

- 映写フィルム：35ミリおよびペンサイズマウント
- 映写レンズ：ズイコーF2.8 f=65mm
- 電源：AC100V、100W
- 照明：3枚コンデンサーレンズ
- ピント調整：回転繰出し式
- スライド方式：上部より押込み式
- クーラー：空冷ファン内蔵(100V)
- 大きさ・重量：90×172×215mm、1,250gr

海外にお出かけの方に——

万一旅行の途中で、カメラに事故が発生した場合は、各国にサービスステーションがありますからお尋ねください。リストは、東京営業所にご請求いただければ、お送りいたします。

オリンパス光学工業株式会社

国内オリンパス・サービス・ステーション所在地 ※日曜・祭日および第1・第3土曜日は休みます。

東京	101.東京都千代田区神田小川町3の7	オリンパス光学工業(株)東京営業所	電話(294) 4411
名古屋	460.名古屋市中区錦3の23の31 栄町ビル	オリンパス商事(株)名古屋支店内	電話(961) 0531
大阪	542.大阪市南区塩町通り3の45	オリンパス商事(株)大阪支店内	電話(252) 6981
九州	810.福岡市天神1の14の1 日本生命ビル	オリンパス商事(株)福岡支店内	電話(76) 4466
北海道	060.札幌市北3条西4丁目 日本生命ビル	オリンパス商事(株)札幌営業所内	電話(231) 2320
広島	730.広島市八丁堀16の11 日本生命第2ビル	オリンパス商事(株)広島営業所内	電話(28) 3821
仙台	980.仙台市中央1の2の3 駅前第1ビル	オリンパス商事(株)仙台営業所内	電話(25) 6821
北陸	920.金沢市香林坊2の4の30 五輪ビル	オリンパス商事(株)金沢営業所内	電話(62) 8257
横浜	220.横浜市西区北幸1の7の2 横浜駅西口ビル	オリンパス商事(株)横浜営業所内	電話(311) 2041
新潟	950.新潟市東大通り1の23 マルタケビル	オリンパス商事(株)新潟営業所内	電話(45) 7337
静岡	420.静岡市追手町1の6 日本生命ビル	オリンパス商事(株)静岡営業所内	電話(53) 2135

海外オリンパス・サービス・ステーション所在地

U.S.A. OLYMPUS CORP. OF AMERICA, 2 Nevada Drive New Hyde Park, N.Y. 11040
GERMANY OLYMPUS OPTICAL CO. (EUROPA) GmbH. Steindamm 105, 2 Hamburg 1

あなたのカメラナンバーを控えておきましょう。

No. _____

IJ 35RC 0271 17MS